

第10回

医学情報サービス研究大会
参加報告 (於: 順天堂大学有山記念館)

日本赤十字愛知女子短期大学図書館

林 志穂

普段より二時間半も早く起き、名古屋から新幹線に乗ったにもかかわらず、岡山発のその新幹線から名古屋で降りる人はほとんどなく、“座れない!? ウソでしょー!?” などと思いながらも東京に着きました。医学情報サービス研究大会へは、去年に続いて二回目の参加です。

今回は、二日目のみの参加でしたが、演題は病院図書室、大学(医学、薬学、歯学)、看護系図書館と幅広く、大学図書館の発表などでは、実際の業務ではとても取り入れる事が不可能な内容についての発表もありましたが、知識だけでも得られる良い機会だったと思います。看護系の図書館からの発表は三件あり、それぞれ「…データベース利用」、「…文献検索法授業の効果」、「看護図書館サービスの展開」といったものでした。データベース利用の発表では、NACSIS-IRへの接続、JOISのオンライン検索、各種CD-ROMの使用により、資料の所蔵確認・検索が迅速にできるようになったという報告がされました。文献検索授業については、当館でも行いたいと思っていた内容であり、大変参考になりました。看護教育の行われる環境は、同じ医療従事者である医師などに比べ、まだまだ整っておらず、図書館で必要な資料や検索ツールについても例外ではありません。しかし、発足したばかりだと思っていた看護図書館協議会も今年で三年目を迎え、年四回の研究会が行われるようになりました。そして、現在加盟館の雑誌総合目録を作成中です。

今回いくつかの発表を聞き、小規模な図書館ではあっても、それなりの方向性がある事を再確認したような気がします。

帰りの新幹線では、“絶対に座れる!!”と心に決め、一号車の一番前に座り、快適な二時間を過ごすことができました。

第64回

日本医学図書館協会
総会参加報告

社会保険神戸中央病院 林 伴子

1993年5月20日～21日に倉敷市の川崎医科大学附属図書館が当番となって開催された、第64回日本医学図書館協会総会に参加したので報告する(於: 川崎医療福祉大学)。

日程としては、第1日目は司書会議が行われ、第2日目に総会が開かれたが、私は、総会のみに参加した。総会では、平成4年度事業報告、活動報告、平成5年度事業報告案などが審議された。

病院図書室に関連する議案としては、制度委員会から提出された。会員構成の改正案がまず挙げられる。特に関係のある改正点は、病院図書室や小規模大学図書館を正会員Bとして加盟を認める、維持会員(個人)を設ける、そして蔵書数など加盟基準を撤廃して会員の増大を図るなどである。しかし、病院組織の中では不採算部門の筆頭である図書室が、入会金、年会費、刊行物の購入費用などを捻出するのはかなり難しいと思えた。総会では質問はなかったが、時間をかけて検討するようである。

教育委員会からは、医学図書館員教育大綱(案)が提出された。これからの医学図書館員の教育のニーズに応え、今まで行われてきたセミナーや研究集会だけではなく、テーマ別の医学図書館講座を開くというものである。従来のセミナー、研究集会は医学図書館員基礎研修会、医学図書館学研究会としたいとのことであった。

教育については、前日の司書会議でも、教育研修図書館制度の導入が検討されたそうである。小規模の図書館(室)を対象に担当者交代時に後任者の研修を行うというものだが、加盟館以外の小規模図書室も対象と考えているように受け取られた。これは、日本医学図書館協会(JMLA)が目指す、加盟館以外へも開かれた図書館という姿勢を示すものではあるが、実際の導入時期は提示されておらず、早急な実施は無いようである。